NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：福知山淑徳高校での国際協力の講演（形態：講演）

２．実施者：坂西卓郎（(公財)ＰＨＤ協会職員）

３．日　時：２０１５年１０月１日（木）

（１３時２０分～１４時１０分）

４．場　所：福知山淑徳高等学校（京都府福知山市字正明寺）

５．参加者：福知山淑徳高校　２年生　１９５名

６．実施報告：

福知山淑徳高等学校２年生に人権教育として国際理解と多文化共生による講演を行った。同校は生まれた国など様々なルーツを持つ生徒が居ること、卒業後には就職を予定している生徒も多く、その場合多国籍な職場環境があることも予想される。そこで、国際協力と多文化共生についての理解を深めるべく講演を依頼された。講演内容は「国際協力概論」、「多文化共生とセーフティネット論」、「インドネシア比較文化論」であった。

同校からの依頼により、できるだけわかりやすく講演をすべく、写真などを豊富に使いながら進行した。今回のメインテーマは「国際協力と多文化共生におけるセーフティネット」として、各地でのセーフティネットの在り方を軸に話を展開した。日本であれば銀行

口座や社会保険などがそれにあたるが、インドネシアの村ではそれない。代わりにコミュニティの相互扶助がそこを担っているという話を具体例を交えて紹介した。

　また主たる講演はＮＧＯ相談員である坂西が行ったが、最後に当会の短期研修生であり、インドネシアの小学校の校長先生、ニニス氏が日本とインドネシアの学校の違いとして、規律正しさなどを指摘し、インドネシア国歌を披露した。堂々とアカペラで国家を歌う様子からも多文化共生の在り方を感じ取ってもらえたようである。講演の現場には地元の両丹日日新聞社の方が取材に来ており、次の日には写真つきで大きく紹介されていたので、広報としても寄与できたものと思われる。実施後のフィードバックとしては、翌日には披露したインドネシア国歌を口ずさむ生徒がいたこと、多文化共生として紹介した「あるもの探し」という言葉がかなり印象的だったことなどを担当教員から聞くことが出来、手ごたえを感じることができた。

７．添付画像：別紙に当日の様子を３枚添付

「福知山淑徳高校での国際協力の講演」の様子①
　NGO 相談員制度についての説明をしているところ。

②福知山淑徳高校の２年生、約２００名。

③多文化共生論についての講演の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．　企画名：グローバルフェスタ JAPAN2015

（形態：相談対応サービス）

２．実施者：

（特活）IVY　阿部眞理子

（特活）アイキャン　井川定一

（特活）AMDA 社会開発機構　山上正道

（特活）開発教育協会　西あい

（特活）国際協力ＮＧＯセンター　伊藤衆子、津島由美子

（特活）難民支援協会　赤阪むつみ

（特活）日本国際ボランティアセンター　長谷部貴俊、寺西澄子

（公社）日本国際民間協力会　大豊盛重

（公財）PHD 協会　井上理子

３．日　時：2015 年 10 月 3 日、4 日

（10 時 00 分～17 時 00 分）

４．場　所：お台場センタープロムナード

（シンボルプロムナード公園内）

５．実施報告：

「Share the Happiness!　～お台場から広げよう！幸せいっぱい

国際協力の輪～」を開催テーマとし、「ミレニアム開発目標 MDGs 達成期限の年」「青年海外協力隊事業 50 周年」を記念して開催されたグローバルフェスタ JAPAN2015 において NGO 相談員 9 団体による相談・質問ブースを設置した。

2 日間とも天気に恵まれ、計 119 件の個別相談に応じ、国際協力に関する情報を提供することができた。

相談内容は、インターン・就職に関することが一番多く、NGO 活動について、またボランティア参加についてが多かった。関東圏以外の相談者は今年も複数来場し、関東以外の相談員による対応は有効であったと考えられる。

また、例年本企画を実施しているため、他ブースから紹介されて本相談員ブースに訪れる方も多かったと同時に、相談内容に適した NGO や JICA、省庁、企業の紹介に有効であった。

＜当日の様子＞

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：JICA ボランティア 2015 年度秋募集　体験談＆説明会（形態：相談対応サービス）

２．実　施：（特活）開発教育協会

３．日　時：2015 年 10 月 7 日（水）（18 時 30 分～21 時 00 分）

４．場　所：大宮ソニックシティホール

（埼玉県さいたま市大宮区桜木町）

５．実施報告：

相談応対（ブース出展）

大宮市内を中心とした JICA ボランティアの応募を検討している市民の約 85 名が来場し、国際協力や NGO に関心のある方から 3 件の相談を受けた。展示ブースには、NGO 相談員のポスターを掲示し、NGO 相談員のチラシ、外務省発行の ODA に関する資料、開発教育教材のサンプルを設置し、質問に来やすいような工夫をした。

相談内容は、青年海外協力隊と NGO 職員の行う現地での活動の違いや、JICA ボランティア終了後の進路相談、NGO に関わる方法ついての相談があった。

所感および効果：

　青年海外協力隊およびシニアボランティアへの応募を考えている参加者のうち、個別相談を希望している方が大変多かった。NGO相談員ブースでは3名の方より一人約15分程度の相談を受けた。相談内容は、主にNGOの活動についての相談が多く、既に活動に取り組んでいる方からは活動を広げていく方法や、これから関わっていくためにはどうしたらよいか、保育士の資格を活かして国際協力を行うにはどのようなNGOがあるか、などだった。また、JICAボランティアとしての活動を終えた後の進路についても相談があった。

　このことから、募集説明会への来場者は国際協力について高い関心を持っており、NGOの活動に対しても、関わっていきたいと考えていることが伺えた。このような相談に対して、具体的にどのようなNGOがあるかを探し出せるように、その場でNGOダイレクトリーを用いて検索できると更に良い対応ができると感じた。

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：香川国際フェスタ 2015 における相談対応サービス

（形態：相談対応サービス）

２．実施者：新居　啓司

（(特活）えひめグローバルネットワーク）

３．日　時：　2015 年 10 月 12 日（月）

４．場　所：アイパル香川館内及び正面玄関前広場

５．参加者：一般来場者（約 4,000 人）

６．実施報告：

実施内容および所感、効果：相談ブースを設けて市民の国際協力に関する質問や相談に対応するとともに、NGO 相談員のチラシの配布・ポスターの展示を行うことで普及啓発を行い、また、昨年度本事業で作成した、冊子「四国・国際協力 NGO と ODA」の配布・活用を行うことで、四国の国際協力団体の活動についての広報を行った。

今回、四国の国際協力団体それぞれの活動パネルを展示したところ、多くの来場者がブースに足を止め、パネルに見入っていた。配布用に用意した冊子、相談員チラシ、その他国際協力イベントチラシ約 50 セットは、全てなくなり、四国の NGO とその活動、NGO 相談員制度の普及啓発に一定の効果があったと考える。

［相談件数］9 件

［主な対応内容］

①　　相談内容　四国の NGO は海外や国内でどのような活動をしているのか？

対応：いくつかの団体を例として、海外では、支援対象としている途上国で、現地のニーズに応え、村落開発、保健医療、教育、農業などのさまざまな分野で技術協力等の支援活動を行っていること、国内では活動資金捻出のためのファンドレイジングや、市民の活動に対する理解促進のための現地活動報告会、講演会、勉強会などの開催、スタディツアーを実施していることなど説明を行った。

②　　相談内容　地雷除去の活動は知っているが、他に四国にはどんな国際協力団体があるのか？

対応：冊子「四国・国際協力団体と ODA」と活動パネルを用いて、四国 4 県の団体の活動概要を説明した。

③　相談内容　音楽や芸術で国際協力をしている四国の団体はあるのか？

対応：ハーモニーワークキャンプ、えひめグローバルネットワークなど、音楽、芸術を媒体として、途上国において教育支援活動をしたり、国内において支援対象国の理解促進のため展示イベントを開

催したりするなど、団体とその活動事例の紹介を行った。

[全体の所感]

　今年の国際協力フェスタは晴天に恵まれ、たくさんの来場者で賑わった。NGO 相談員のブースでは、四国の国際協力 NGO とその活動を PR するために作成したパネルの展示が、来場者の興味を引き、来場者からは四国の NGO の活動に関する質問が多く寄せられた。また、ブースに立ち寄った来場者の多くは、冊子「四国・国際協力 NGO と ODA」や NGO 相談員、国際協力イベントチラシを取り、四国で活動する NGO や国際協力に対する関心の高さを伺わせた。

　相談対応の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．　企画名：世界食料デーフェスティバル

（形態：相談対応サービス，講演）

２．実施者：佐藤　瞳（(公社）日本国際民間協力会）

３．日　時：2015 年 10 月 18 日（日）（11 時 00 分～16 時 00 分）

４．場　所：関西会場　梅小路公園（京都府京都市）

５．参加者：イベント来場者数：7,000 人、相談対応件数：15 件

６．実施報告：

＜実施内容＞

「世界食料デーフェスティバル」は、学生が中心となって企画され、国内外の食料問題に対して発信し、課題解決を目指すイベントである。今年が初となる取り組みで、関東（東京・葛西臨海公園）と関西（京都・梅小路公園）の 2 会場で同日に開催された。関西会場では、京都や大阪で活動する団体を中心に、食品関係の企業や飲食店、食の分野で活動する NGO や学生団体など 18 団体が参加し、パネル展示やブース来場者、他団体との交流を行なった。またステージでは、学生や主婦、社会人、シニア世代などの一般来場者を対象に、食料問題にまつわるトークショーや、音楽ライブ、ダンスパフォーマンスなどが披露され、イベントを盛り上げた。

弊会はトークセッションにて、歌手で難民支援等に対して積極的に取り組んでいる内田あや氏、一般財団法人日本国際飢餓対策機構の碓井賀津子氏、世界食料デーフェスティバル 2015 実行委員長で同志社大学グローバル地域文化学部 3 回生の中尾孔仁氏と共に登壇し、世界の食料問題や NGO による支援活動、家庭や個人で手軽に出来る支援方法などを紹介した。また、相談ブースを設け、食料問題や国際協力に関心の高い学生や社会人などを対象に、ボランティアや寄付、国際協力業界への就職などに関する質問や相談を受け付け対応した。同時に、食の分野で活動する参加団体に、広報やファンドレイジング、組織運営に関するアドバイスを提供した。

＜所感及び効果＞

トークセッションでは、NGO が 2 団体と、学生、歌手という異なる立場の登壇者がクロストークを行なったことで、複数の視点から世界の食料問題を語り、幅広い支援方法を提案することが可能となった。また、歌手の内田氏の存在により、多数のファンが熱心にトークに耳を傾けていた。トークセッション後には相談ブースを訪れ、NGO の活動や支援の方法についてより詳しく質問していったファンも見られた。多彩な登壇者によるトークセッションおよび著名人をイベントへ巻き込むことは、普段国際協力に関心を持たない層へのアプローチとして、非常に有効であると改めて感じた。

本イベントはイベント開催経験の少ない学生が中心となり企画されたため、イベントの企画・運営会社で勤務経験のある弊会佐藤が、企画の初期段階から、トークセッションや主催者ブースの内容などに関する相談に乗り、アドバイスを行なった。初開催ということで事前広報や当日の運営など改善の余地が見られたが、多くの一般来場者が世界の食料問題や自分ができる支援方法について考える良いきっかけとなった。第 2 回、第 3 回と続けていくことで、イベントの質や来場者数がより一層向上していくことを期待する。

＜活動風景（写真記録）＞

相談ブース出展

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．　企画名：第 131 回京都 CSR 研究会（形態：講演）

２．実施者：佐藤　瞳（(公社）日本国際民間協力会）

３．日　時：2015 年 10 月 23 日（金）（18 時 30 分～20 時 30 分）

４．場　所：京都キャンパスプラザ（京都府京都市）

５．参加者：13 人

６．実施報告：

＜実施内容＞

京都 CSR 研究会は、在京企業や NGO、教育機関などが中心となり、CSR をはじめとした問題の情報交換と議論を目的として 2003 年に発足された。スピーカーが CSR に関連するトピックについて発表を行なった後、メンバー間で自由に議論を行なう会を、月に 1 回開催している。

10 月 23 日に開催された第 131 回京都 CSR 研究会には、企業の CSR 担当者や大学教授、団体職員、CSR に関心の高いシニア層など、13 名が参加した。渉外担当として国内外の事業で企業と協働経験のある弊会佐藤がスピーカーとして登壇し、企業と NGO のパートナーシップの事例やメリット、デメリット、今後の可能性などについての講演を行なった。また、CSR に関する相談窓口として

NGO 相談員制度をアピールすると共に、企業が利用可能な ODA における官民連携スキームについて紹介した。講演後は、CSR に関する参加者の個別相談を受け付けた。

当日の主な相談内容

・社内で CSR 活動実施を提案しているが、理解を得られない
・自社の CSR 活動に NGO の知見を生かしたいが、NGO の情報をどこで得られるかわからない
・NGO が企業との CSR 事業を増やしていく方法
・NGO が専門性を生かして社会的信用を勝ち取るには
・大学の授業で日本の国際協力や NGO の役割について講義に来てほしい

＜所感及び効果＞

参加者は企業の CSR 担当者や国際協力分野の大学教授、企業との協働を目指す NGO 職員など、日常の業務で CSR や国際協力に携わる機会の多い方々が中心だったため、講演後の相談も非常に具体的かつ実践的な内容を話し合うことができた。企業の CSR や国際協力 NGO とのパートナーシップ、国際協力に対して、より一層の理解と参加が促進されたと考える。

CSR を実施しなければならないと感じており、国際協力 NGO と

の協働にも興味のある企業は多いものの、社内の理解構築や予算の獲得、国際協力 NGO に関する情報収集などが障壁になり、実現に至っていないという声が聞かれた。国際協力 NGO についての情報提供や、社内での理解獲得のための資料作成など、NGO 相談員が協力できる部分も多く、企業内のニーズも高いように感じた。

国際協力 NGO との協働や CSR 活動が一般的になりつつある東京の企業に比べ、京都の企業はいまだ国際協力や CSR、NGO に対して情報が少なく、敷居が高いと感じている現状が明らかになった。JICA の国際協力推進員や他の NGO 相談員団体と協力し、国際協力 NGO と企業のマッチングイベントの開催や情報提供サービスなど、地方で活動する NGO 相談員団体ならではの企画を検討したい。

＜活動風景（写真記録）＞

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．　企画名：ワールド・コラボフェスタ 2015

（形態：相談対応サービス）

２．　実施者：（特活）名古屋 NGO センター センター　門田一

（特活）アイキャン 山中理恵

３．　日　時：2015 年 10 月 24 日（土）・25 日（ 日）

(10 時 00 分～ 17 時 00 分)

４．　場　所：オアシス オアシス オアシス 21「銀河の広場」

（名古屋市東区桜一丁目）

５．　参加者：2 日間の来場者は約 78,000 人

（相談件数 53 件）

６．実施報告：

所感及び効果等

<u>名古屋 NGO センター</u>

中部地域最大級のイベントにブースを設置し、NGO 相談員の存在を多く方に知っていただくことができた。 当イベントでは、年々国際協力関心層が増えているように感じ、来場者の中には、一つでも多く情報を得たいという非常に積極的な方がおり、例えば、習得した外国語のスキルを活かしたいという年配の方には 地域の NGO

を紹介して繋げることができた。また、 相談者の関心に沿って、今後行われる各種セミナー等の情報を伝え、イベント後も引き続きNGO 相談員が相談を受け付けることが可能であることを伝え、 今後に繋がる対応をすることができたと感じている。

アイキャン

学生から年配の方まで、幅広い層から相談があった。学生は、ボランティアやNGO への就職についての相談が多く、中部地域においてボランティアを募集している団体や求人情報を紹介した。一方、年配の方からは、 貧困問題の現状や途上国の取り組みについての質問が多く寄せられ、幣団体が活動しているフィリピンを例に具的に伝えることできた。国際協力を目的としたイベントいうこともあってか、相談者の年齢にかわらず現状を知るだけでなく自分にできることは何かないかと考えている方が多かったように思った。それに対し、具体的な提案や助言を行ったことで、相談者が一歩踏み出せるよう後押しし、中部の NGO 活動の活性化にも貢献できたと感じている。

＜主な相談内容＞

・NGO と NPO の違いにつて。

・NGO でのボランティアには、どんな種類があるのか。

・タイ語ができるので、 タイで日本語教師としてボランティアできる方法はないか。

・英語を勉強しているので、英語を使って何かボランティアがあるか。

・スタディツアーとは何か 。どういったものがあり、費用はいくら位か。

・スタディツアーに参加するメリットは何か。

・英語が出来なくても海外ボランティアはできるのか

・青年海外協力隊とスタディツアーはどう違うのか。

・国際協力に関心がある、 何をしたらよいか。自分にできることは何か。

・身近な地域にはどんなボランティアがあるか 。

・フィリピンの政府は 、貧困問題に対して 、どんな取り組みをしているのか。

・フィリピンの人は、どんな暮らしをしているのか。

・NGO 職員になりたいが、どのようにして団体を選べばいいか。

・寄付できる物品にはどのようなものがあるか。

＜写真＞

名古屋 NGO センター

アイキャン